

【平成26年度全国学力・学習状況調査結果】

平成26年4月に実施した全国学力・学習状況調査の町立小・中学校の結果をまとめました。

【概要】

平成26年度全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に、国語、算数・数学の2教科で実施されました。出題範囲は前学年までの指導事項を原則とし、主として知識に関する問題(A)と、主として活用に関する問題(B)に分けて出題されました。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われました。

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
身に付けておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能などを実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2)質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や人物・物的な教育条件の整備の状況などに関する質問紙調査

【教科に関する調査】

(県公立学校の平均正答率と比較)

◆小学校

いずれも県公立学校の平均正答率と同程度でした。(±5%以内)

○国語(A)

文章構成を理解することや、文の意味のつながりを捉えて、適切な表現にして書くことは良好でした。

一方、漢字を正しく書くことや故事成語の使い方を理解することに課題がありました。

○国語(B)

課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことは良好でしたが、二つの文章を読み比べて、表現の工夫などの内容を捉えることには課題がありました。

○算数(A)

二つの数量の関係を□や△などの記号を用いて式に表すことは良好でした。

○算数(B)

公倍数の関係を理解することや、答えの理由を説明するためにどの資料を用いよいかなど、根拠となる事柄を選択したり、説明したりすることは良好でした。

一方、示された計算のきまりを基に、計算する方法を式や言葉で表現することや、示された情報を整理しながら、式や言葉で表現することなどに課題がありました。

◆中学校

国語Aと数学Aは県公立学校の平均正答率と同程度でした。

国語Bと数学Bは県公立学校の平均正答率よりやや低下という結果でした。

○国語(A)

表現するために集めた材料を整理することは良好でした。

一方、漢字を正しく書くことやことわざ、歴史的仮名遣いの理解に課題がありました。また、目的に沿った話し合いで、互いの発言を検討することについて課題もありました。

○国語(B)

根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がありました。今後、文章表現の工夫や効果を分析し、その内容を説明できる力を付けていくことが求められます。

○数学(A)

数を代入する文字式の理解や、数量に着目して式をつくること、図形の証明問題における、証明の方針の意味を理解することなどについては、良好な結果でした。

一方、数量関係の不等式の表し方、作図の方法について、関数の意味やヒストグラム(注)における中央値の意味の理解などについて課題がありました。

(注) ヒストグラム：計量した特性の分布の形を把握するための度数分布のグラフのこと

○数学(B)

空間図形の位置関係を的確に捉えることについて身についています。証明された事柄を用いることやグラフの特徴を読み取り、問題を解決する方法を説明することなど、説明力に課題がありました。

【質問紙調査】

(全国や神奈川県との割合と比較)

◆小学校

●生活習慣

「早ね・早おき・朝ご飯・朝うんち」を推進している生活習慣は概ね全国や県の割合と同じですが、同じ時刻に就寝するという項目は高い傾向にあり、比較的、生活リズムが安定していると言えます。

●コミュニケーション能力

自分の考えを発表したり、伝えたいことを友だちに伝えたり、話を最後まで聴いたりするというコミュニケーション能力については、高い傾向にあり、学校の授業や行事の中で取り組んできた成果ではないかと考えられます。

●地域参加

地域や社会の出来事への関心は、全国や県の割合と同じですが、地域の行事への参加は比較的高く、地域との深いかかわりを持ち、地域の中で育っていることが伺えます。

●規範意識

ほとんどの児童が学校の決まりを守っていて、友だちとの約束もしっかりと守っています。また、人の役に立つ人間になりたいと考えていて、いじめはどんな理由があっても絶対にいけないと考えており、いじめに対する児童の意識が高まっていることが分かります。

◆中学校

●生活習慣

生活習慣に関しては、小学校と同じく概ね平均的であると言えます。比較的、生活リズムが安定していると思われる。

●学校生活

学校に行くのが楽しいと感じている生徒の割合が多く、授業や部活などに充実感を感じながら学校生活を送っている生徒が多いと考えられます。

●家庭学習

学校以外の学習の時間(土日も含む)が多く、家庭学習が習慣化されていることが伺えます。一方、テレビやゲームの時間も多く、今後改善していかなくてはいけないと考えられます。

●自己肯定感

自分によいところがあると考える割合や、将来の夢や目標をもっているという割合が低く、今後、自己肯定感を高めることに課題があると考えられます。

今回の調査結果から

- ◎ これまで身につけてきた「話す・聴く」力を、より一層つけていきます。
- ◎ 基礎的・基本的な内容の定着を図り、確かな学力の定着を目指していきます。
- ◎ 学び合い・伝え合いを中心とした、分かり合う喜びのある授業づくりを目指していきます。
- ◎ 生活習慣においては、安定した結果でしたので今後も、学校、家庭、地域との連携を深めていきます。